

あおぞら通信

18年度の主な取り組み

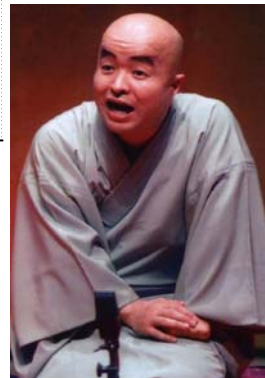
■ 第22回人権啓発推進大会

第22回延岡市人権啓発推進大会を11月27日、加チャプラザのべおか(多目的ホール)で開催しました。

今回は、「こけ枝のほのぼの人権断(ばなし)」と題し、香川県を中心に落語やラジオ出演などで活動している落語家の桂こけ枝さんを講師に迎え、ユーモア

を交えた講話と落語による講演でした。

先天性股関節脱臼という障害を持つこけ枝さんは、小学生の頃にいじめを受け不登校になった経験や、友達の支えで立ち直ることができたエピソードなどを話し、人はすべて平等であり互いの人権を尊重し合うことの大切さを訴えました。



(桂こけ枝さん)

(参加者の感想)

楽しい雰囲気の中で、人権についての学習をすることができました。

企画としても参加者を満足させる内容で、学級の皆さんにも大変好評でした。

「人権」というテーマは人が集まりにくいと思いますが、このような工夫をすることで学習機会の提供につながると思います。

(北浦小学校家庭教育学級の皆さんの感想から)

そのほかにも、約300名の参加者から、多くのアンケートが寄せられました。ありがとうございました。

■ 人権を考える週間作品展

第22回延岡地区「人権を考える週間」作品展を12月12日から17日まで加チャプラザのべおか(2F 71-スペース)で開催しました。

園児、小・中学生、高校生から合計424点(作文51点、詩34点、標語162点、絵画、ポスター177点)の作品が出展され、ロビーに展示されました。

家族連れなど多くの市民が会場を訪れました。自分の絵の前でお父さんと握手しニコリする小学生の光景など、あたたかな作品展となりました。



■ 延岡市人権セミナー

延岡市教育委員会との共催による人権セミナーを加チャプラザのべおか(ハーモニーホール)で開催しました。3回のセミナーで合計460名の参加がありました。

■ 11/7 「子どもと人権～大切にされることで知る人権、育つ人権意識」
人権啓発講師 とみながとも子 さん

■ 11/17 「いのちの重さ、尊さを共に考える」
愛媛県人権対策協議会副会長 江口 徹子 さん

■ 12/6 「失明して50年ここまで歩いてきて思ったこと」【障害者週間記念行事】
NPO 法人宮崎市視覚障害者福祉会副理事長
馬渡 幸三郎 さん

■ 人権週間 街頭人権啓発活動

法務局、延岡人権擁護委員協議会との共催による人権週間行事として、12月4日「人権の日」に、ジャスコ延岡ニューシティ店で街頭啓発活動を行いました。

宮崎地方法務局の岩切延岡支局長、林田延岡人権擁護委員協議会会長、首藤本協議会会長(市長)、マスコットの人KEN マモル君をはじめ、関係者全員で買物客に人権尊重を呼



びかけ、法務局が準備したパンフレットや啓発物品を配布しました。

なお、本協議会からもパンジーの苗を配布しました。

■ 夏休みふれあい映画祭

毎年、幼児から大人まで多くの方が楽しみにしている夏休みふれあい映画祭を7月下旬から8月中旬にかけ、延岡総合文化センター大ホールをメイン会場に開催しました。

園児、小中学生、家族連れなど、3会場あわせて、1,000人を超える参加をいただきました。

今年の夏も、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

- 7/28 延岡総合文化センター（大ホール）
（「チキン・リトル」などアニメ3本上映）
- 8/1 北浦町中央公民館
（「二匹の猫と元気な家族」などアニメ5本上映）
- 8/12 市立図書館北方町分室
（「夢 空高く」などアニメ4本上映）



（たのしかったよ ピ〜ス！） （みんなでなかよく記念写真）

■ 延岡地区同和教育研究大会

第27回延岡地区同和教育研究大会が、8月11日、約650名という参加のもと、加チャプラザのべおか、社会教育センターで開催されました。

午前中の記念講演は、鹿児島県鹿屋市立大黒小学校の小濱幸雄さんが「差別をなくす生き方が一番素晴らしい」と題し講演、午後は6つの分科会でレポート報告を中心に活発な実践交流が行われました。

土々呂中学校区を中心に 「共に生きる力を育む人権教育推進事業」 に取り組んでいます。

土々呂中学校区では、土々呂幼稚園、土々呂小学校、土々呂中学校、延岡ろう学校、延岡南養護学校を中心に、学校間や保護者、地域の方々と連携し、県教育委員会指定事業に取り組んでいます。期間は、平成18～19年度の2年間です。

テーマ：「つながり合う土々呂」、スローガン：「手をつなぎ、いっしょに歩もう土々呂っ子」、重点目標：「共生」をかかげ、現在まで、人権感覚を磨くための「一貫カリキュラム」の作成や交流学習、体験学習、講演会などを行ってきました。

また、1月には、保護者や地域の方々も参加され、「土々呂中学校区人権教育講演会」を開催しました。まず、幼稚園園児や各学校の児童、生徒がそれぞれの取り組みを発表し合い交流しました。その後の講演会では、ハンセン病問題を通して、人権や命の大切さをともに考えることができました。

今後も、幼稚園、各学校、保護者・地域が連携し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることのできる」幼児・児童・生徒の育成を進めていきます。

（記事提供：土々呂中学校）

一月に土々呂中体育館で開催された人権教育講演会の様子です。



■ 人権啓発指導者養成事業 活動報告

18年度人権啓発指導者養成事業に参加された、佐島良一さん（知的障害者更生施設「はまゆう園」職員）松尾房義さん（板野医院相談員、人権擁護委員）、水木庸子さん（北浦町赤十字奉仕団員、人権擁護委員）の活動状況を報告します。

【指導者養成研修】

- 人権啓発指導者養成研修（6/21～23：宮崎市青島）
- 企業人権セミナー（9/14、10/17、11/14：宮崎市）
- えせ同和講習会（2/8：宮崎市）

【自主参加研修】

- 地域人権セミナー（8/19：カルチャープラザ）
- 市人権セミナー（11/7、11/17、12/6：カルチャープラザ）
- 市人権啓発推進大会（11/27：カルチャープラザ）

3名の方々には、熱心に研修に参加いただきました。また、過年度指導者の長浜恵美子さん、夏田清明さんにも今年度もたいへん積極的にご参加をいただきました。ありがとうございました。

「えせ同和行為」に関する情報です。

最近、全国でインターネットを悪用した陰湿な部落差別書き込み事件などが頻繁に発生している一方、同和問題を口実に高額な図書を購入や賛助金の納入などを電話により強要する「えせ同和行為」が依然として多く発生しています。

行政、人権推進団体等では、このような「えせ同和行為」の排除に懸命に努めていますが、県及び県内市町村に寄せられる相談件数は年々増加する傾向にあります。

特に最近では、業種・職種にかかわらず個人事業所などの小規模の事業所がねらわれています。また、年度替りを迎えるこれからの時期は、人事異動後をねらった電話セールスが多く発生しています。



このような電話が直接かかってきた、または知人が困っているなど、何かありましたら、すぐに協議会事務局（市人権推進課）までご相談、お知らせください。

なお、対応マニュアル配付のご希望がありましたら、協議会事務局までご連絡ください。

新規会員を募集しています。

協議会では、協議会事業の目的である人権啓発活動をより広く推進するため、現在、新規会員に加入いただく事業所、団体などを募集しています。

会員の事業所、団体などには、協議会から人権講演会・セミナー、研修会等の案内、啓発資料の配布、貸し出し、会報の郵送などを行っています。

なお、会費などの負担は一切ありません。

お心当たりの団体、事業所等がありましたら、ぜひ加入を勧めていただきますよう、ご協力をお願いします。

1. 最近のセールスの特徴

- ・同和関係団体、人権関係団体、政治家等の名前を出して売り込む。
- ・図書は1冊当たり5～6万円と高額。
- ・民間では個人事業所への要求が増えている。
- ・上司の知り合いのふりをして電話をつながせる。
- ・知識不足や言動にいいがかりをつけ購入を要求。
- ・あいまいな返事をする、図書と請求書が届く。
- ・1度購入すると、繰り返し電話がかかってくる。
- ・購入を断ると、脅して購入を迫る。
(実際に危害を加えられた例はありません。)

2. 対応方法

- ・「いりません。」「購入の必要はありません。」と、はっきり断ってください。「結構です。」「いいです。」等とあいまいな返事をしていると、購入の意思ありとすきを与えます。
- ・買わない理由を聞かれても、答える必要はありません。購入の意思がないことだけを繰り返し主張してください。
- ・同和問題、人権問題の理解を深めることは大切ですが、図書を買うかどうかは別の問題です。必要な資料は人権啓発推進協議会事務局（市人権推進課）から提供を受けるので、購入の必要がないことを伝えてください。
- ・執拗な電話を受けた場合は、結論は変わらないことを告げ、電話を切ってもかまいません。
(宮崎県作成 対応マニュアルより)

人権啓発ビデオを無料貸出します。

協議会では、毎年、人権研修用の人権啓発ビデオの整備を進めています。3月には新たなビデオを購入する予定です。無料貸出しですので、ぜひ、職場研修などにご活用ください。(裏面に一覧を掲載)

また、各種の人権関係図書もあります。基本的な人権学習をしたい、もっと詳しく学習したいという会員の方、ぜひご活用ください。

ご希望される場合は、事務局までご連絡ください。

無料貸出しの 人権啓発ビデオ です。 職場などでの研修にご活用ください。

No.	題 名	分 野	時間	作成	あ ら す じ
①	えせ同和行為排除のために	同和問題	30分	2002年	同和問題に関する書籍の購入を強要され思い悩む主任。しかし法務局に相談し、えせ同和行為への対応を身につけ、毅然とした態度で臨む。
②	私自身をみてください -固定観念・ステレオタイプ-	人権全般	27分	2001年	私たちの暮らしの中にある固定観念・ステレオタイプ・偏見を、ドラマと解説の2部構成で問題提起している。
③	「私」のない私 -同調と傍観-	人権全般	30分	2003年	人権侵害に気づいているのに行動できない私。行動を妨げている同調と傍観について、ドラマと解説の2部構成で問題提起している。
④	内藤剛志の中学生トーク ライブ	人権全般	30分	2001年	第21回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品をもとに、俳優 内藤剛志とさまざまな地域から集まった中学生たちが、「人権」を語り合う。
⑤	差別っていったい何やねん -歩く水平社宣言・川口泰司-	同和問題	30分	2004年	差別のない社会を願い、懸命に生きてきた父、母、祖母、多くの先輩たち。差別の本質を追及し、世代を超え伝えなければならない思いを語る。
⑥	部落史学習ビデオⅡ 全国水平社の思想と闘いに 学ぶ	同和問題	45分	—	新しい研究に基づき、全国水平社創立までの経過や背景、解放に立ち上がった人々の思想と闘いの歴史を、人権学習に活用しやすいように編集。
⑦	部落史学習ビデオⅢ 被差別部落の成り立ちに 学ぶ	同和問題	50分	1993年	新しい研究成果に基づき、被差別部落の歴史的成立過程や被差別民の担った芸能文化について、人権学習に活用しやすいように編集。
⑧	部落史学習ビデオⅤ 「人権教育のための国連 10年」と同和教育	同和問題 人権全般	55分	1997年	各地での人権・同和教育の実践に学び、1995年から始まった「人権教育のための国連10年」の理念を受け、今何が求められているのか考える。
⑨	人権に向き合うための6つ の素材（エピソード）	DV・高齢者・障害者 報道被害等	27分	2003年	家族の会話をミニドラマで再現し、身の回りに起こる人権問題の背景や立場の異なる人々の思いをドキュメンタリー・インタビューで伝える。
⑩	企業と人権 部落地名総鑑事件30年企画	個人情報、 性別、障害者、 外国人等	30分	2006年1月	人権漫才を取り入れたユニークな手法で、個人情報や男性・女性、障害者、外国人、部落差別などの人権課題を考えるためのキーワードを提供。
⑪	人の値打ちを問う -人権の詩人・江口いと-	同和問題	25分	2000年8月	人権の詩人として知られる江口さんは、息子の差別、孫の差別と3代にわたる差別を経験。差別体験に基づく人間存在への視点は鋭く温かい。
⑫	ヒューマン博士と考えよう ～差別から人権の確立へ～	同和問題	28分	—	部落差別の歴史をひもときながら、差別された人々の生産と労働、芸能や文化へのかかわりを、ヒューマン博士が分かりやすく解説。